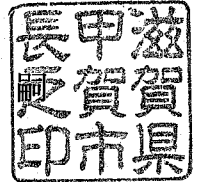


甲国県第 45 号
平成20年10月20日

国土交通省 道路局
局長 金井道夫 様

滋賀県甲賀市長 中嶋 武



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け、国道企第37号で依頼のありました標題の件につきまして、別添のとおり意見を述べさせていただきますので、よろしくお取り計らい願います。

今後の道路行政についての意見・提案

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

滋賀県 甲賀市

○地方における道路整備の充実

大都市圏内では、片側3～4車線で自転車歩行者道も整備され、分離帯には植樹がされた立派な道路が数多くありますが、地方ではその状況が一変します。甲賀市も例外でなく、国土幹線である国道1号をはじめ、国道307号、国道422号が通過し、主要地方道や県道のほか多くの市道を抱えています。国道1号ですら2車線の対面通行の区間があり、主要地方道や県道にあっては対向できない路線もあります。また、甲賀市は三重・京都の2府県8市町村に接することなどからも、新名神高速道路へのアクセス整備や、県内の主要地間を結ぶ道路交通ネットワークの整備促進、さらには、重要幹線の交通混雑緩和対策などは住民の要望も強く、積極的な取り組みが望まれています。

○道路整備にかかる財源確保

道路特定財源制度は受益者負担による合理的な制度で、これまでの道路整備を支えてきた道路特定財源が平成21年度より一般財源化されることは、本市のように道路整備事業費の財源を道路特定財源に大きく依存している自治体にとっては、現在の厳しい財政状況からみて、日常の道路維持管理にまで大きく影響受けることは必至であります。道路整備にかかる財源確保については、受益者負担の原則に則り充当されることが当然であり、道路整備中期計画に基づく真に必要な道路整備など国民の期待する道路整備に充当していただくことが大前提であると考えております。

なお、本市地域は人口増加率に比例して、自動車交通への依存率が極めて高いにもかかわらず、道路の整備率は低い状況にあることから、地域の課題や実情に的確に対応した整備が機動的に行なわれるよう、優先的に地方道路整備事業にかかる十分な財源の配分についてご配慮いただきたいと考えています。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

滋賀県 甲賀市

○新名神高速道路の早期ネットワーク化

新名神高速道路は、人と物流の大動脈として日本経済を牽引する高規格幹線道路網の核をなす高速自動車国道で、平成20年2月待望の亀山JCT～草津田上IC間49.7kmが供用され、今後、経済効果や市民生活の利便性の向上など、大きな効果が発揮されるものと期待していますが、一方、新名神高速道路の接続区域で未着手・未供用区間である名神高速道路の大津IC以西や東名阪自動車道四日市IC付近では交通量の増加により慢性的な大規模渋滞が発生しています。

このため、当面着工しない区間とされている大津～城陽、八幡～高槻間の必要性は明確で、四日市～亀山間などの整備中の区間については、早期に完成させることが強く望まれているところであり、新名神高速道路は計画全線が供用されることによって高速ネットワーク化が図れ、本市においても産業振興をはじめあらゆる分野で効果が表れるものと期待しています。

○主要幹線道路の充実

甲賀市の幹線道路である国道1号は、2車線の対面通行でありましたが、近年の交通量の増加に伴い、交通渋滞が慢性化し、沿線の道路交通環境は悪化していました。その対策として、水口道路の四車線化や栗東水口道路のバイパス整備が進められ、これまでの部分開通や暫定供用などにより、これまでの慢性的な渋滞は若干の緩和が図れたものの抜本的な改善までには至っておりません。今後も沿線に店舗が立並ぶなかの現道拡幅であることから、多くの方々から土地の提供や店舗の移転などに大変な協力をいただかなければなりません。市内関係者をはじめ道路利用者からは早期の全線拡幅整備の完成が望まれています。

また、新名神高速道路は、甲賀市内に3箇所のIC（甲南ICは平成20年春供用予定）を配しますが、それらのICにアクセスする道路である国道307号や主要地方道などは一部未整備区間もあることから、ICから市内の工業団地や観光地へのアクセスに支障をきたしており、さらには、生活道路への通過車両の進入などにより、市民の生活にも影響を及ぼしています。

今後の道路行政についての意見・提案

②－２ 地域の目指すべき将来像

滋賀県 甲賀市

甲賀地域は、東海道五十三次の宿場町としてはぐくんできた独自の街道文化により、人の輪を強め、交流文化を重視し、旅人へのもてなしの心を大切にする市民性は、今もなお、しっかりと生きています。また、恵まれた自然環境と全国ブランドである産業が調和した甲賀地域は、新名神高速道路の開通により、関西と中部、伊勢と北陸を結ぶ新たな交通の要衝となり、モノづくりや流通などの産業を創出し、大きく飛躍していくものと考えています。

こうした状況にあって、市の将来像としては、国道 1 号、国道 307 号などの地域の骨格となる幹線道路や、新名神高速道路 IC へのアクセス道路などの整備、さらには、新名神高速道路を中心にして、名神高速道路や名阪国道を結ぶ「名神名阪連絡道路」の事業化により、甲賀市のみならず、滋賀県内や近接する三重県伊賀圏域との発展とともに、周辺都市との交流や産業、観光振興につながる連携強化を図ることにより、市民一人ひとりが甲賀市民であることに自信と誇りが持てる、安心安全で快適な生活・社会基盤の充実したまちを目指していきます。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

滋賀県 甲賀市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	名神名阪連絡道路の整備	三重、滋賀両県の県境付近は、新名神高速道路や国道1号、名阪国道といった主要な国土幹線道路が東西を結ぶ交通の要衝であり、当該地域の経済活動や文化、民間交流等の緊密化、広域化は両県の発展においては極めて重要であると考えられます。 こうしたなか、当該地域の中心を南北に整備が計画されている地域高規格道路の名神名阪連絡道路は、北陸自動車道や伊勢自動車道と一体となって日本海から太平洋に至る南北軸を形成し、三重県伊賀地域、滋賀県甲賀地域、東近江地域からなる地域集積圏の形成、魅力ある定住地域づくりを支援するとともに東西方向の高速道路ネットワークとの連携による道路網の機能強化や広域的な交流を促進する道路として期待されている現状であります。	
大規模な地震、火災に強い国土づくり等	橋梁の耐震対策	滋賀県には幾つかの活断層が分布しており、特に発生確率の高いと言われている南海・東南海地震の発生時においては、こうした活断層にあたえる影響も大きく、名古屋と大阪を結ぶ道路網にも深刻な打撃を受けることが	

良好な生活空間・ 自然環境の形成	甲賀湖南道路等の改築整備と生活道路の 安全確保	予想されており、特に、その中心に位置し、東西・南北の国土軸的な幹線道路が交わる甲賀市においては、緊急車両や物資輸送の車両が通行できるよう緊急輸送路を確保するための道路整備を推進する必要があります。しかしながら、厳しい地方財政状況のなかにあつて、特に多額の事業費を必要とする橋梁の耐震整備は十分とは言えず、今後の震災等に対応した緊急物資搬送にかかる幹線道路を確保するうえからも、早期の対応が必要であると考えています。 甲賀市内及び周辺の幹線道路の整備は低い状況にあり、従来の通過交通車両に加え、「新名神高速道路」の供用を機に工業団地への企業進出が急増したことによる交通量の増加に伴い、市内の道路では交通渋滞が慢性化しています。さらには、渋滞を避けた車両が生活道路までにも殺到し、沿線の道路交通環境は著しく悪化し、住民生活を脅かす状況ともなっています。 こうしたことから、甲賀湖南道路をはじめ、主要な幹線道路の渋滞緩和を図り、生活道路における子供や高齢者など交通弱者が安心して利用できる道路環境を確保するため、主要幹線道路の整備を優先すべき事業であると考えています。	
-----------------------------	------------------------------------	--	--